

おっぱい教室開催の現状と今後の課題

医療法人 真田産婦人科麻酔科クリニック

○ 久保ちずよ 姫野美佳 内川加代子 酒井康子 津原富久恵 永江里美 鄭香苗

野口あけみ 向千津子 高丘直美 高柳典子 平川万紀子 平川俊夫

福岡女学院看護大学 福澤雪子

佐賀大学医学部看護学科 山川裕子

【はじめに】

出産後のケアの中で、抱っこや授乳が上手くできない母親達が多く、妊娠中からの基本的な育児体験を含めた母乳育児に特化した指導の必要性を痛感し、「おっぱい教室」を開催している。おっぱい教室が満足でき、役立つものであるかを明らかにし、教室の現状と今後の課題について検討したので報告する。

【研究方法】

2009年11月～2010年5月までにおっぱい教室を受講し、当院で出産した母親92名を対象に教室に関する自作の自記式質問紙を用いて調査を行った。

【結果】

回答数は56名。初産婦52名(92.9%)。教室参加目的は「母乳育児を希望」19名(34.0%)、「初めてで何も分からない」18名(32.1%)などであった。内容の理解度が高かったのは、「母乳育児の利点」34名(85.0%)、「当院のカンガルーケア方法」29名(72.5%)、「乳房の手入れの必要性」26名(65.0%)であった。妊娠中に実践していた実技内容は「乳房の手入れ」22名(39.3%)、「操体法」15名(26.8%)、「育児の練習」8名(14.3%)であった。児の栄養法については受講後に全員母乳栄養を希望した。理由としては、「受講により母乳が母子にとって大切なことだと理解した」「母乳栄養をあきらめていたが、母乳の利点を再認識できたので母乳だけで頑張ろうと思えた」などがあげられた。出産後に役立った内容は「母乳育児の利点」34名(85.0%)、次いで「育児技術」41名(73.2%)などであった。受講者の89.8%が受講内容に満足と回答した。要望として、「回数を増やして欲しい」「参加者との会話時間を増やして欲しい」などや、「母乳をあげる時間や間隔について知りたい」「おっぱいが張ることについて知りたい」などがあげられた。

【考察】

母乳育児への関心があり、学習意欲の高い妊婦が多く受講していたと推察され、受講により母乳栄養に対する意識が高まり、全員が母乳栄養を希望したものと考えられる。教室開催のねらいと受講者のニーズが一致したことが受講者の満足度の高さにつながった。おっぱい教室は母親にとって役立っていると考えられる。しかし、実技の実践度は低く、受講後のフォローが必要と考えられる。これまでの母親教室では、多岐にわたる講義の一部として、母乳育児指導も行ってはいたが十分ではなかった。妊娠中からの基本的な育児体験も含めた、母乳育児に特化したおっぱい教室を開催することに意義があると考えられる。スムーズな母乳育児への導入については、今後の実践の中で見極めていきたい。

【課題】

おっぱい教室内容の充実、実技のフォローがあげられる。未受講者にも母乳育児の学習の機会が提供できるような方法を検討していきたい。